



所得300万円で  
保険料40万円

「高い国保料が命をうばう  
こんな国でいいのかわ

命をまもるはずの医療保険の負担が重すぎて、病院にかかれず命をおとす人まで…。こんな国でいいはずはない—日本共産党の小池あきら政策委員長・参院議員は、3月6日の予算委員会で、“社会保障きりすて路線”がもたらした深刻な実態をしめし、鳩山首相に抜本的な転換をせまりました。

## 「1人1万円引き下げを」

### 小池あきら政策委員長が提起

札幌、京都、大阪、福岡などでは、所得300万円の4人家族の国保料は40万円以上。鳩山首相も「相当高いという実感をもっている」とこたえざるを得ませんでした。ここまで保険料が高くなってしまった原因は、国が国保会計の負担を半減させてしまったからです。

小池議員は、「命をまもるといふなら、保険料をただちに下げるべき。1人1万円の引き下げは十分できる」と提起しました。首相は「財政状況はたいへんきびしいが、財源確保に努力したい」とこたえました。



「保険証とりあげ、  
亡くなる人も」(小池)  
「慎重に対処するよう  
(自治体に)願います」(厚労相)

さらに小池議員は、国保料が高すぎて払えず保険証をとりあげられ、病院にかかれなばかりか、きびしい督促で自殺に追いこまれる人まで生まれていることを告発。「こんなやり方はやめるべきだ」とせまりました。


長妻厚労相は、「払えるのに払わないことが証明された場合以外は、慎重にと願っている」とこたえました。

質問する小池あきら政策委員長=3月4日、参院予算委



いま、暮らしを支える社会保障の充実はまったなしの課題です。財源は、軍事費と大企業・大資産家への優遇税制という「2つの聖域」にメスを入れれば、消費税の増税なしに十分生みだせます。

自民が“増税すべき”とせまり、民主も“検討が必要だ”と応じている消費税の増税。貧困と格差をますます拡大し、日本社会をこわす道です。日本共産党はやめさせるために全力をつくします。

購読 申込書	○ 印をおつけください ● 日刊 月2900円 ● 日曜版 月800円		 2010年3月号外 <small>(1952年5月30日 第三種郵便物認可)</small> 発行●日本共産党中央委員会 〒151-8586 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-26-7 TEL 03-3403-6111 FAX 03-5474-8358
	お名前	住所 〒	

お申し込みは、お近くの党事務所または党员か、右記まで。ホームページからも申し込みます。

<http://www.jcp.or.jp>